

新年度スタートに向けて

上田 克彦

公益社団法人日本診療放射線技師会 会長

2021年度が始まります。本年度のスローガンは「タスク・シフト/シェアに伴う業務拡大を推進しよう」と提案致しました。本年度、最も重要な事業は、医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアの推進に伴う診療放射線技師の業務拡大に関する告示研修です。

これまでの業務拡大とは異なり、免許をお持ちの全ての診療放射線技師の方が受講していただくことが義務となりました。告示研修の方法は、オンデマンド・オンラインで受講していただける基礎研修と、会場で実施する実技研修の組み合わせで準備する予定です。基礎研修は、ご自身の時間に合わせて受講でき、視聴時間と理解度試験で修了を確認するシステムとなります。実技研修は、講師に日本医学放射線学会、日本看護協会のご協力を頂き、静脈路確保などのこれまで診療放射線技師が実施していない技術習得を目指します。実技研修は1日間で実施する予定で、指定された研修時間を盛り込むため朝から夕方までの長時間になり、皆さまにはご負担をお掛けすることになりますが、全ての方が受講できますよう開催を計画したいと思います。

次に、2021年度事業計画案の主な内容をお示し致します。

1. 新たな役割拡大に伴う告示研修の実施、2. 医療放射線安全管理の推進、3. 読影の補助、放射線検査説明事業の推進、4. 診療報酬改定に向けた事業の展開、5. オンライン事業の推進、6. 新しい生涯教育制度の展開、7. 第37回日本診療放射線技師学術大会の実施、8. The 23rd Asia-Australasia Conference of Radiological Technologists (AACRT) の実施、9. 事務局業務の効率化推進、10. 綱領解説文および診療放射線技師の倫理綱領の周知活動

以上の10項目を重点課題として取り組みたいと存じます。読影の補助事業については、診療放射線技師として求められている内容について放射線科専門医と協議・再確認し、社会に貢献できる業務として推進していきたいと考えています。

オンライン事業の推進については、これまで会場型の事業への参加が困難であった地域の皆さまにも、さまざまな事業参加を期待することができます。また会議経費の大幅な削減効果もあることから、今後もオンラインの活用を充実したいと考えています。

第37回学術大会は、篠原健一大会長（東京都診療放射線技師会 会長）のリーダーシップの下、「国民と共にチーム医療を推進しよう—技術の多様性と人の調和—」のテーマで、11月12日（金）から14日（日）まで東京ビッグサイトで開催致します。この大会は、本会では初となるハイブリッド型学術大会（Web型と会場型を織り交ぜた開催）となります。新型コロナウイルス感染症拡大を防ぎながらの運営にはさまざまな課題が山積していますが、東京都診療放射線技師会の皆さまと協力して解決していきたいと思っております。

本会の綱領は1997年に制定され、会誌の冒頭に掲載されてきましたが、その存在について十分認知されているとは言えませんでした。2020年度に綱領見直し委員会で検討がなされましたが、現在にも適用できる素晴らしい内容であり、その意義が本会の活動方針を国民に示すものであることを再確認し、内容理解のための解説を作成しました。またISRRT（世界放射線技師会）の倫理規程に準拠した診療放射線技師の倫理綱領も作成し、社会の一員としてあるべき姿を示しています。ここに改めて診療放射線技師の役割を認識し新しい業務を行うことで、さらに社会に貢献する職業であることを自覚できると思います。

本会は、今後も社会の変化に合わせて遅れることなく、社会を牽引する活動ができるように運営していきたいと思っております。

